

実績報告書

届出者	住所	大阪府貝塚市二色中町8-1	氏名	株式会社 ヨータイ 取締役社長 馬場 和徳
特定事業者の主たる業種		21窯業・土石製品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		耐火煉瓦製造業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	2015 年 4 月 1 日～ 2017 年 3 月 31 日 (3年間)
----------	---------------------------------------

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	5,258 t-CO ₂	7,027 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,382 t-CO ₂	7,172 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	-1.9 %	-10.7 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	-2.0 %	-10.5 %	-33.3 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>近年の生產品目が、燃料原単位の高い内容となってきたこと及び、客先から品質向上の要求が年々高まってきている状況にある。</p>	
<p>燃料原単位の悪い製品の生産が前年度に比べて40%増加した。</p>	

(2) 推進体制

環境マネジメントシステム中の環境目的・目標の一つにガス使用量及び電力使用量の削減を掲げ、取り組んでいます。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	(株)ヨータイ	コード (1121) ①②燃焼効率の 向上	セラミック焼成炉の焼成炉省エネ化の内容 ①焼成台車の積載量を増やす。 ②燃焼効率の良い台車配分にする。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	(株)ヨータイ	コード (1122) ③消費電力の低 減	③老朽化設備の更新により消費電力の低減を図る。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	千葉県船橋市山野町27	氏名	株式会社横河ブリッジ 取締役社長 高田 和彦
特定事業者の主たる業種		24金属製品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		橋梁、鉄骨、鉄塔、鉄管などの構造物、及び建築物の設計製作、建設、診断、補修、工事管理を行う		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)
----------	---------------------------------------

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	5,579 t-CO ₂	6,202 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,996 t-CO ₂	6,904 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2018 年度)	第1年度 (2016 年度)	第2年度 (2017 年度)	第3年度 (2018 年度)	
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	-4.5 %	-11.0 %	-11.2 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	-8.7 %	-15.4 %	-15.2 %	
吸収量による削減率		%	%	%	%	

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>大阪工場では、材料・切断棟、第一・第二工場、屋外50tヤード、各橋型クレーンをエコセラ・水銀灯からLEDに更新し、総電力314KWを120KWまで削減。 いずみ工場での生産量増加によるエネルギー使用量16.7%アップが、削減率悪化の原因であると考えます。</p>
--

(2) 推進体制

①環境マネジメントシステム運用 ②省エネ委員会を運用

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1215) コンプレッサー 効率化	75kwスクリーコンプレッサー更新	2016年度 ～ 2018年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1199) エア配管整備	老朽化したエア配管を更新し、エアもれ防止	2016年度 ～ 2018年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1114) 伝達装置損失低減	チェーンベルトの損失低減	2016年度 ～ 2018年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1218) 水銀灯をLEDに更新	屋外照明をLEDに取替	2016年度 ～ 2018年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1111) 運用管理	省エネ・温暖化防止に向けた啓蒙活動	2016年度 ～ 2018年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	横浜市鶴見区大黒町5番35号	氏名	横浜冷凍株式会社 代表取締役社長 岩淵 文雄
特定事業者の主たる業種		47倉庫業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に、冷蔵、冷凍の食品、加工品、原料品を保管する冷蔵倉庫業で、全国に43事業所あり、大阪府内4事業所運営しております。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)
----------	---------------------------------------

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	5,513 t-CO ₂	6,068 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,168 t-CO ₂	6,660 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	%	%	%	%
	レ	削減率(原単位ベース)	3.0 %	7.5 %	1.7 %
削減率(平準化補正ベース)		-	8.6 %	4.2 %	4.6 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(大阪府内の事業所の総扱い量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>第3年度に2.7%の削減が達成できた、今後も一層の環境配慮行動の実施省エネルギー型機器の代替を進め温室効果ガス排出の抑制に努めます。</p>

(2) 推進体制

全社的にグリーン経営を認証取得し、代表取締役社長を環境保全総括責任者とする環境保全促進体制を準備し、毎月の進捗を社員に把握させ、勉強などを行っている。又、エネルギー源単位の削減を制定し、業務効率向上、保守点検を強化し、日々エネルギー効率向上に努めている。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全事業所	コード (5115) 不要照明の消灯	作業エリアのみの点灯 昼休み消灯	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	全事業所	コード (1216) 設定温度の管理	冷房設定28度 暖房設定24度	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	全事業所	コード (1113) 冷却設備効率運 転	保守を遵守し、冷却設備の効率向上	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	全事業所	コード (1217) 昇降機効率運 転	規程容量の搬送を行い回数の減少に努める。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	舞洲物流 センター	コード (4210) 遮熱塗装	遮熱塗装の 実施 平成29年度実施済み	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	舞洲物流 センター	コード (1215) 施設の更新	冷却塔更新 平成28年度実施済み	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	全事業所	コード (1215) 省エネ機器の導 入	機器の更新 (LED照明、インバーター他) 平成28年度一部実施	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	六甲物流 センター	コード (1215) 施設の更新	冷却塔更新 平成29年度実施済み	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全事業所	コード (2123) エコドライブの 推進	待機中などのアイドリング禁止	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

(4) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	東京都江東区大島3丁目2番6号	氏名	株式会社 吉野工業所 代表取締役 吉野 祥一郎
特定事業者の主たる業種		18プラスチック製品製造業（別掲を除く）		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		各種プラスチック容器の製造・販売		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)
----------	---------------------------------------

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	5,811 t-CO ₂	6,753 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（平準化補正後）	6,400 t-CO ₂	7,434 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	削減率（排出量ベース）	%	%	%	%
	レ	削減率（原単位ベース）	3.0 %	0.1 %	1.6 %
削減率（平準化補正ベース）		-	-0.1 %	1.7 %	4.5 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容（目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入）

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	（原材料
（温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法）	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>第一年度は、生産設備とユーティリティー設備との負荷バランスが悪く、削減率が0.1%と低い値となったので、第二年度以降、ユーティリティー設備と負荷をバランス良くコントロールしました。 また、省エネ型エアコン・LED照明などの省エネルギー型機器への更新を行い、3年間で4.4%の削減を達成しました。 今後も一層の環境配慮行動の実施・省エネルギー型機器への更新を進め温室効果ガス排出削減に努めます。</p>

(2) 推進体制

<p>・環境対策委員会を設置し、対策の進捗状況報告及び現状の改善方法を検討し活動を継続する</p>

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	吉野工業所 大阪工場	コード (1215) 省エネ型冷凍設 備へ入替え	省エネ効果の高い冷凍設備(100HP)に更新 し電力量削減する。(年間54t-CO2を削 減)	2016 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	吉野工業所 大阪工場	コード (1125) 省エネトランス へ入替え	トップランナートランスに入替え電力損失を削 減する。 (年間7.8t-CO2を削減)	2016 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	吉野工業所 大阪工場	コード (1218) LED照明入替 え・自動点灯に 切り替え	LED照明に入替え電力量削減する。 (年間39t-CO2を削減)	2016 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	吉野工業所 大阪工場	コード (1216) 省エネエアコン 設備に入替	省エネエアコンに入替え電力量削減した。 (年間4t-CO2を削減)	2016 年度 ～ 2016 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	吉野工業所 大阪工場	コード (1215) ポンプインバ ーター制御による 省エネ	工業用水ポンプ圧力制御による電力量削減を行 う。(インバーター制御) (年間2t-CO2を削減)	2016 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	吉野工業所 大阪工場	コード (1218) LED照明入替 え・自動点灯に 切り替え	LED照明に入替え電力量削減した。 (年間1t-CO2を削減)	2016 年度 ～ 2016 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	吉野工業所 大阪工場	コード (1215) ポンプインバ ーター制御による 省エネ	工場冷却水ポンプ圧力制御による電力量削減し た。(インバーター制御) (年間6t-CO2を削減)	2016 年度 ～ 2016 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	吉野工業所 大阪工場	コード (1215) 省エネ冷凍機に よる原単位向上	省エネ効果の高い冷凍設備(50HP)を導入し 電力量削減した。(年間25t-CO2を削 減)	2016 年度 ～ 2016 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	吉野工業所 大阪工場	コード (1215) 省エネ生産機に よる原単位向上	省エネルギータイプ生産機を導入し、生産性向 上(エネルギー原単位向上)を図った	2016 年度 ～ 2016 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	吉野工業所 大阪工場	コード (2121) 低燃費車への入 替え	車両更新時に低燃費車を導入する。 28年度2台入替え済み 今後も入替えを進めます。 (年間 2t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
2	レ	GHG排出	吉野工業所 大阪工場	コード (2123) 経済運転推進・ アイドリングス トップ実施	現在保有する全車がエコドライブを 実施した。 (年間 0.07t-CO2を削減) 今後もエコドライブを推進します。	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策

--



実績報告書

届出者	住所	東京都中央区日本橋箱崎町36-2 Daiwaリバーゲート18F	氏名	株式会社 吉野家 代表取締役社長 河村 泰貴
特定事業者の主たる業種		76飲食店		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		吉野家事業を中心としたフードビジネスを展開しており、全国で1,200店舗を出店し、うち大阪府内で130店舗の出店を行っている。 平成27年度6月より大阪府を含む関西地区を分社化し、(株)吉野家の一部門から(株)関西吉野家として独立した。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)
----------	---------------------------------------

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	7,630 t-CO ₂	7,999 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	8,262 t-CO ₂	8,681 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	%	%	%	%
	レ	3.0 %	1.2 %	-11.3 %	-16.8 %
削減率(平準化補正ベース)		-	1.5 %	-11.8 %	-17.1 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(販売数)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>前年度に引き続き販売数が減少(基準年度に対し▲15%)したことが、原単位上昇の主な要因。事業所数は前年度128箇所に対し、当該年度は130箇所と2箇所を新規に出店し、設備機器・照明などの販売数に関係なく使用する基礎エネルギーの使用量のベースも増加したことにより、原単位の分子部分が大きくなり、分母部分が減少したことにより目標を大幅に未達成となってしまった。1店舗当たりのCO₂発生量は基準年64.5 t-CO₂(128か所)⇒66.7 t-CO₂(130か所)と+2.2 t-CO₂/店と増加してしまった。</p> <p>運用面では、従来から実施している執務室の無人時の消灯・店内エアコンの温度設定などを継続して実施している。</p>
--

(2) 推進体制

・全社の環境組織としては、「CSR推進委員会」があり、全社環境施策の課題解決及びCSR経営を推進しております。
 ・具体的な節電対策としては、新店および店舗改装時にLEDの導入を推進しております。また日々の運用として、不要照明消灯、エアコンの省エネを実施しております。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	改装店舗	コード (1122) 空調設備の省エネ	省エネ型エアコンの導入。 平成29年度は4店舗で、交換時期がきたエアコンを省エネ型エアコンに交換実施。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	改装店舗	コード (1218) 照明設備の省エネ	LED照明の導入。 平成29年度は4店舗でLED看板を導入。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	全店	コード (1113) エアコンの設定温度	エアコンの設定温度変更。 夏季および冬季時にエアコンの設定温度を全店 (130店舗)に通知する。 (夏25℃、冬19℃)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	改装店舗	コード (1122) 洗浄機の省エネ	節水型洗浄機の導入。 交換時期がきた食器洗浄機3店舗で節水型食器洗浄機に変更実施。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	全店	コード (1113) 冷蔵機器の温度管理と記録	冷蔵機器について温度記録を日々行い、過冷却や故障によるエネルギー使用過多にならない様に監視体制を強化した。	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	全店	コード (1112) 電気・ガスの使用量記録	電気・ガスの使用量を日々検針記録し、無駄な使用・危機故障の早期発見する取り組みを実施。	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	全店	コード (1114) 空調機器・冷蔵機器の定期点検の実施	空調機器・冷蔵機器について、定期的な点検・清掃を専門業者が実施し、適正使用できる状態を維持している。	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	関西AO	コード (2123) 安全運転講習会での啓蒙活動	年に1回全ドライバーを対象に安全運転講習会を実施し、エコドライブの啓蒙活動を実施。	2017 年度 ～ 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	関西AO	コード (2113) 日報による管理	使用毎に運転日報記載提出を義務化し、適正使用を管理している。	2017 年度 ～ 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	関西AO	コード (2114) 運行前点検の実施	車両使用開始時に運行前点検を行い、結果を日報に記載の上、安全運転管理者に提出させ管理している。	2017 年度 ～ 年度
	レ	人工排熱				
4	レ	GHG排出	関西AO	コード (2121) ハイブリッド・低燃費車への入れ替え	車両リースアップなどの入れ替え時に低燃費車等への入れ替えを積極的に実施している。	2017 年度 ～ 年度
	レ	人工排熱				
5	レ	GHG排出	全店	コード (2122)	通勤時は原則公共交通機関利用とし、社用で移動する際も公共交通機関利用促進を促している。	2017 年度 ～
	レ	人工排熱				

			廻勤・仕用修勤 時の啓蒙	。	年度
--	--	--	-----------------	---	----

(4)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市北区梅田1-8-16	氏名	吉本ビルディング株式会社 代表取締役社長 吉本 幸司
特定事業者の主たる業種		69不動産賃貸業・管理業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		・主に、自社ビル1棟の賃貸及びその運営管理を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)
----------	---------------------------------------

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	3,561 t-CO ₂	3,121 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,937 t-CO ₂	3,517 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	5.8 %	5.0 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	4.5 %	3.5 %	10.7 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>前年度は大型テナントの退店があり、空き店舗が増加いたしました。この影響で、夏季並びに冬季の熱源負荷要求が減った為、前年度比で大幅に排出量が削減されました。又、削減率についても基準年に対して12.4%減少となり、目標を大きく上回りました。本年度以降、大型テナントが再入居する為、引続き温室効果ガスの削減に、より努めてまいります。</p>
--

(2) 推進体制

現在ある当社の省エネルギー推進委員会メンバーにて地球温暖化対策推進委員会を開催し、定期的に対策の進捗状況を報告し、現状改善等の検討を行っており、本体制を継続して行きます。又、設備の中長期投資計画会議を月1回開催し、省エネルギーに繋がる設備導入の検討及び情報の収集を行っており、今後も継続して行きます。電気の平準化につきましては、夏季の昼間ピーク時にガス式冷温水機を使用し、空調電力の削減を行います。又、アイスジェネレータの夜間製氷により、空調熱源電力使用時間帯の分散化を行います。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	吉本ビルディング	コード (1218) 照明設備の導入	館内及び駐車場照明器具を消費電力の低いLED照明器具に変更する。 【継続実施中】	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	吉本ビルディング	コード (1218) 照明設備の導入	館内バックエリアの照明器具を人感センサー付器具に変更・間引きする。 【継続実施中】	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	吉本ビルディング	コード (1218) 照明設備の導入	館内誘導灯器具を省エネルギー効果の高い器具に変更する。 【継続実施中】	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	吉本ビルディング	コード (1113) 空気調和設備の 運用改善	冷暖房の温度設定を最適に行えるよう運転制御・管理システムを運用する。 【継続実施中】	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	吉本ビルディング	コード (1113) 熱源機器の運転 管理	各空調機冷温水要求量を監視しつつ、空調設備への冷温水送水温度を調整し、熱源機器を効率よく運用する。 【継続実施中】	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	吉本ビルディング	コード (1217) 給排気設備の運 転管理	運転効率の良い給湯用ボイラーに更新した。 【H27年度実施済】	2015 年度 ～ 2015 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	吉本ビルディング	コード (1217) 給排気設備の導 入	エレベータを更新し、更新前と比較して低容量・高効率で運用することで電力量を削減した。 【H27年度実施済】	2015 年度 ～ 2015 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	吉本ビルディング	コード (1217) 給排気設備の導 入	給排気ファンをインバータ化し、給排気量に適した運転により省エネを図る。 【H29年度実施済】	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	吉本ビルディング	コード (5121) 熱源機器の運転 管理	夏期のピーク時間帯において、熱源機器（ガス）と夜間蓄熱をメインで使用し、熱源機器（電気）を停止することで電力量を削減する。 【継続実施中】	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	吉本ビルディング	コード (5121) 給排気・空調設 備の運用改善	夏期のピーク時間帯において駐車場の給排気ファンの停止。一部空調還気ファンの停止。夏季において、OAダンパーの閉鎖。 【継続実施中】	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
11	レ	GHG排出	吉本ビルディング	コード (1216) 各フロアー空調 制御の更新	各階フロアーの空調制御システムで更新されていないフロアーの空調制御システムを更新し、よりこまめな省エネ運転が出来るようにする。 【継続実施中】	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
12	レ	GHG排出	吉本ビルディング	コード (1199) ポスターによる 啓蒙活動	各階、バック通路へ『地球温暖化防止』のためのポスターを掲示する。 【継続実施中】	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
13	レ	GHG排出	吉本ビルディング	コード (1114) PAC室内外機 の熱交換器定期	ビル内共用部のパッケージエアコン室内・外機の熱交換器を年1回定期的に洗浄し、熱交換の効率を高めることで、省エネを図る。 【継続実施中】	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

				洗浄	【継続実施中】	
14	レ	GHG排出	吉本ビルディング	コード (1217) 給排気設備の運 転管理	駐車場排気ファン制御を他ファンと連動で制御 していたものを、個別制御化することで排気 ファンシステムを効率よく運用する。【H29 年度実施済】	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
15	レ	GHG排出	吉本ビルディング	コード (1217) 給排気設備の導 入	給気ファンを1台省エネ型に更新し、高効率で 運転を行う。【H29年度実施済】	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(4)その他の抑制対策

<p>・1階及び2階外部敷地内の一部緑化（約700㎡）を行っている。</p>

実績報告書

届出者	住所	大阪市北区梅田1-8-16	氏名	吉本ビルディング株式会社 代表取締役社長 吉本 幸司
特定事業者の主たる業種		69不動産賃貸業・管理業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		複合施設（事務所・物販店舗・飲食店舗・駐車場）		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)
----------	---------------------------------------

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	4,482 t-CO ₂	4,517 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,784 t-CO ₂	4,862 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	3.0 %	1.1 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	2.7 %	0.2 %	-1.7 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>空調の制御及びバック通路照明の間引き点灯等で削減に努めていますが、稼働率の増加及び夏の平均気温が昨年度より高く、熱源の運転が増加したため、削減率が減少した。</p>

(2) 推進体制

現在ある当社の省エネルギー推進委員会メンバーにて地球温暖化対策推進委員会を設置し、定期的に進捗状況を報告し、現状改善等の検討を行っており、本体制を継続していきます。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	第二吉本ビルディング	コード (1122) 空気調和設備の使用改善	空調機 外気取り入れ抑制の実施。 (CO2制御) 600ppmから800ppmに変更。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	第二吉本ビルディング	コード (1218) 照明設備の使用改善	店舗階バック通路照明間引き点灯を行う。 (残置灯を昼間8:00～22:00の間OFF)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	第二吉本ビルディング	コード (4999) 空気調和設備の使用改善	テナントへ適正温度の啓発。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	第二吉本ビルディング	コード (1122) 空気調和設備の使用改善	共用部の適正温度設定を実施。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	第二吉本ビルディング	コード (1199) ポスターによる啓発活動	各階、バック通路へ『地球温暖化防止』のためのポスター掲示。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	第二吉本ビルディング	コード (1122) 空気調和設備の使用改善	駐車場内の環境を調査し、給排気ファン、誘引ファンの間欠運転による運転時間の短縮。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	第二吉本ビルディング	コード (1122) 空気調和設備の使用改善	低層各空調機冷水要求量を監視しつつ、熱源設備冷水送水温度を調整。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	第二吉本ビルディング	コード (1122) 熱源設備の使用改善	低層熱源において、ヒートポンプ機を優先利用し、ガス吸収式の運転時間の短縮。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	第二吉本ビルディング	コード (1122) 熱源設備の使用改善	店舗系冷却水温度を監視しつつ、店舗系冷却水ポンプ2台目運転を抑制。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	第二吉本ビルディング	コード (1122) 空気調和設備の使用改善	高層空調温水要求量を監視しつつ、熱源温水送水温度を調整。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
11	レ	GHG排出	第二吉本ビルディング	コード (1199) 空気調和設備の使用改善	8Fビル事務所の適正冷房と軽装勤務を実施。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
12	レ	GHG排出	第二吉本ビルディング	コード (1113) 昇降設備の使用改善	エスカレーター運転時間の短縮。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
13	レ	GHG排出	第二吉本ビルディング	コード (1122) 空気調和設備の使用改善	2台ある低層溶液二次ポンプの優先運転を商用ポンプからインバーターポンプに変更。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
	レ	GHG排出		コード (1218)	館内設置自動販売機の照明の消灯。	2015 年度

14	レ	人工排熱	第二吉本ビル ディング	照明設備の使用 改善		～ 2017 年度
	レ	平準化				
15		GHG排出	第二吉本ビル ディング	コード (5231) ピークカット	低層熱源において、ピークカット要請時間帯は ガス吸収式を優先利用し、ヒートポンプ機の運 転停止。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(4)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市中央区南本町4-1-1	氏名	株式会社 淀川製鋼所 代表取締役社長 二田 哲
特定事業者の主たる業種		24金属製品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		表面処理鋼板 屋根・建材・エクステリア商品 ロールの製造		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
2015 年 4 月 1 日～	2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	30,609 t-CO ₂	29,104 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	31,614 t-CO ₂	30,278 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	2.3 %	0.7 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	2.3 %	0.4 %	4.3 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>H29年度は、主なエネルギー量は、排ガス処理設備の更新完了と生産量の減少もあり排出量が大きく減少した。しかし、その他のエネルギー量については、夏の猛暑により、エアコンの使用率が上がったこと、前年度は半年分であった前々年度に購入したビルの年間のエネルギー使用量が追加されたことで増加した。</p>
--

(2) 推進体制

<ul style="list-style-type: none"> ・社長を委員長とした環境委員会を設置し、環境問題に関する現状の確認や、問題の改善などを検討する場としています。 ・各工場担当者を集め、環境管理連絡会を定期的開催し、環境問題に関する対策を検討し、周知徹底に努めています。
<ul style="list-style-type: none"> ・工場単位では、環境マネジメントシステムを導入しているため、このシステムを利用し、温暖化等の環境問題について取り組んでいます。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1211) 排ガス処理設備の更新	排ガス処理設備の更新(直燃式→RTO方式) 平成28年度更新。	2017年度 ～ 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2		GHG排出	大阪工場	コード (5121) 夏季のピークシフト	7月～9月の平日昼間・尖頭時使用電力の削減	2015年度 ～ 2017年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1121) 熱処理炉設備改善による燃料削減	熱処理炉設備改善による燃料使用量の削減	2015年度 ～ 2017年度
		人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1111) 熱処理炉の工程短縮	従来タイプの熱処理炉で、方案変更により工程を短縮し、エネルギー使用量を削減。	2015年度 ～ 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1215) 変圧器の高効率化	電力用変圧器を高効率型へ移行計画を行う。 ①負荷率実績値の把握を行う。 ②省エネ効果の算出を行う。	2016年度 ～ 2017年度
		人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1218) 照明のLED化	工場の天井照明のLED化により、電力使用量を削減	2015年度 ～ 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	本社ビル	コード (1218) 照明のLED化	本社ビル1F通路照明のLED化により、電力使用量を削減	2015年度 ～ 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	大阪工場 泉大津工場	コード (2221) モーダルシフト化	トラック輸送から海上輸送や鉄道コンテナ輸送にシフトする	2015年度 ～ 2017年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	大阪工場 泉大津工場	コード (2225) 積載率の向上	積載率の向上	2015年度 ～ 2017年度
		人工排熱				
3		GHG排出	大阪統括営業所	コード (2121) 低燃費車の導入推進	ハイブリッド車の導入推進	2015年度 ～ 2017年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府河内長野市上原西町16-1	氏名	株式会社 吉年 代表取締役社長 八木 政則
特定事業者の主たる業種		22鉄鋼業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		球状黒鉛鋳鉄品及び可鍛鋳鉄品による、自動車部品、農機具部品、建築用部品、車両用部品、及び管継手等の製造・販売を行っています。 工場は、本社工場のみです。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
2015 年 4 月 1 日～	2017 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	13,528 t-CO ₂	10,129 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	15,424 t-CO ₂	11,562 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2014 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	%	%	%	%
	レ	3.0 %	16.6 %	16.9 %	12.5 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	15.3 %	17.1 %	12.4 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値		(溶解量)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)			
	t-CO ₂	溶解量	
基準年度26年度	12,528	20,378	=0.664
27年度	10,355	19,013	=0.545
28年度	10,104	18,605	=0.543
29年度	10,072	17,735	=0.568

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

焼きなまし工程(焼鈍工程)を外注化したため、A重油の使用量が減った。 (基準年度26年度A重油使用量; 930k1, 29年度A重油使用量; 50k1)	
---	--

(2) 推進体制

<ul style="list-style-type: none"> ・製造部を中心に省エネルギーの小集団活動を展開中です。 ・製造・技術部署による生産性の向上及び不良率の低減活動を進めています。
--

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	(株)吉年	コード (1199) 鋳造品歩留まり 向上	鋳造品で歩留まりの低いアイテムから毎月1点の対策を行う。	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	(株)吉年	コード (1199) 鋳造品の不良率 対策	鋳造品で不良率の高い製品から毎月2点の対策を行う。	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	(株)吉年	コード (1199) 方案歩留まりの 向上	鋳造方案において、歩留まりの低いアイテムを選定し、可能な対策を行う。	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	(株)吉年	コード (1218) 高効率照明に更 新	工場内の照明を高効率照明に更新する。	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	(株)吉年	コード (1112) エネルギー量の 測定	エネルギーの使用量を毎月測定し、電力及び燃料の原単位を管理する。	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	東京都新宿区北新宿3-20-1	氏名	株式会社 ヨドバシ建物 代表取締役 藤沢和則
特定事業者の主たる業種		56各種商品小売業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に、家電商品販売を行っており、全国で23店舗を出店し、うち、大阪府内では1店舗の出店を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
2015 年	4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	14,324 t-CO ₂	17,364 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	16,816 t-CO ₂	19,872 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	1.7 %	-9.3 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	4.3 %	-6.6 %	-18.2 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>第3年度では2期ビル建設工事及び既存ビル改修工事等により、基準年度比21.3%増加した。今後、新たな対策を検討・実行し省エネ対策に努める。</p>
--

(2) 推進体制

エネルギー管理者を中心に、防災センターにて当ビルにおける省エネルギー対策を実行する。また、毎月、定例会議にて、省エネルギー対策推進についての会議を実施。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	ヨドバシ梅田	コード (1218) 不要照明カット の実施	自然採光が可能な箇所、及び照度的に問題のない箇所、使用していない箇所について消灯を徹底する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	ヨドバシ梅田	コード (1218) H f 蛍光ランプ の継続した導入	基本照明器具について、H f 蛍光ランプを竣工時より導入しているが、今後も継続して導入する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	ヨドバシ梅田	コード (1122) 室内温度の適正 維持	室内温度測定巡回を実施し、適正な温度を維持し省エネを図る。(夏季 26℃)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	ヨドバシ梅田	コード (1215) 不要機器カット の実施	各階トイレ洋式便座にて、便座ヒーターを夏季停止しているが、今後も継続し省エネを図る。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	ヨドバシ梅田	コード (1215) 不要機器カット の実施	従業員トイレハンドタオルにて、運転を停止しているが、今後も継続し省エネを図る。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	ヨドバシ梅田	コード (1215) 運転時間の見直 し	開店前の各エスカレータ起動時間を1時間遅らせて、省電力を図る。(年間 56.92t-CO2 削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	ヨドバシ梅田	コード (1218) 高効率電球へ取 替	各階後方エリア及び駐車場エリアの照明器具 2440台をLED器具に取替し、省電力を図る。(年間 89.47t-CO2 削減)	2015 年度 ～ 2015 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	ヨドバシ梅田	コード (1215) 運転時間の見直 し	テナント従業員用エレベータ3台のうち1台、毎日昼間に9時間使用停止し、省電力を図る。(年間 3.23t-CO2 削減)	2015 年度 ～ 2015 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	ヨドバシ梅田	コード (1215) 運転台数の見直 し	冬期の空調負荷が少ない期間 (12～3月) に、空調用循環ポンプの運転台数を減らし、省電力を図る。(年間 68.98t-CO2 削減)	2015 年度 ～ 2015 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	ヨドバシ梅田	コード (1216) 改修による運転 効率の改善	空調設備、冷却塔の一部改修を行い、運転効率の改善化により、省電力を図る。 ※平成27年夏季前 24台中9台改修 (年間 48.25-CO2 削減)	2015 年度 ～ 2015 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
11	レ	GHG排出	ヨドバシ梅田	コード (1216) 運転時間の見直 し	空調設備、空冷ヒートポンプチラーの停止時間を30分前倒し、冷温水の余熱を利用した外調機運転を実施し、省電力を図る。 ※平成27年度冬季より実施	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(4)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市北区野崎町3-14	氏名	株式会社 読売大阪プリントメディア 代表取締役社長 永田 正弘
特定事業者の主たる業種		15印刷・同関連業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		大阪府南部、和歌山県など向けの読売新聞を印刷		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
2015 年 4 月 1 日～	2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	3,548 t-CO ₂	3,439 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,862 t-CO ₂	3,750 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	%	%	%	%
	レ	3.0 %	-5.4 %	-13.3 %	-13.9 %
削減率(平準化補正ベース)		-	-7.0 %	-13.4 %	-14.1 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産数量(使用連数 1連=4000頁))
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>原単位の分母となる数値に「使用連数(印刷に要した紙の量)」を用いていますが、近年の新聞発行部数の減少により、エネルギー使用量が同じでも、原単位が上昇する状況となっています。電力のうち、夏季では約70%、冬季でも約60%を空調に要しており、新聞発行部数とは無関係に消費するため、原単位の改善が困難となっていますが、原単位の改善を目指し、温室効果ガスの削減を努めていきます。平成30年度より、原単位の分母となる数値を延床面積(10323平方メートル)に変更します。</p>

(2) 推進体制

定例会議を月1回実施し、前月の使用電力量、ガス使用量などのデータを前年同月と比較し、節電など実施状況の把握、空調機の温度設定の見直しを行い、さらにミーティング等で節電、節約の注意喚起を行い、従業員全員で省エネに取り組んでいます。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	高石工場	コード (1113) パソコンの省電力	離席時のパソコンの電源オフを徹底し省エネを図る。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	高石工場	コード (1113) 照明の省電力	不要時の消灯を厳守するための再徹底し省エネを図る。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	高石工場	コード (1113) 空調の省電力	冷暖房を適正な温度に設定し、省エネを図る。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	高石工場	コード (1113) 照明の省電力	廊下及び通路の間引き照明実施し省エネを図る。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	高石工場	コード (1113) 空調の省電力	空調運転スケジュールを見直し必要最小限の運転時間を目指し省エネを図る。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	高石工場	コード (1113) 照明の省電力	作業に影響を与えない程度の部分消灯し省エネを図る。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	高石工場	コード (1216) 空調の省電力	作業員事務所にエアコンを増設し作業員事務所の空調のために運転していた工作室空調機を停止し省エネを図る。(年間約16/t - CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	高石工場	コード (1216) 空調の省電力	CPU室のPAC空調機を停止。代わりに電気室系からバックアップに切替し省エネを図る。(年間約17/t - CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	高石工場	コード (1218) 照明の省電力	階段照明蛍光灯40W2灯型34台を省エネHf32W1灯型に更新にて運用。(年間約4/t - CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	高石工場	コード (1218) 照明の省電力	関西電力から夏冬季と2回の節電要請を全面的に受入れ、各事務所の照明の間引きし省エネを図っていたが、平成29年度は近年の新聞発行部数減により実施しなかった。(年間約1/t	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
11	レ	GHG排出	高石工場	コード (1218) 空調の省電力	制作現場2階及び3階の空調機の間引き運転を実施し省エネを図る。(年間約254/t - CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
12	レ	GHG排出	高石工場	コード (1215) 電気需要の平準化	関西電力から夏季節電要請を受け、7月から9月迄平成22年度実績最大電力の16%ピークカット。平成29年度より近年の新聞発行部数減により実施しなかった。1560kWの16%=250kW	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
13	レ	GHG排出	高石工場	コード (5999) 電気需要の平準化	関西電力から夏季節電要請を受け、7月から9月迄、新聞夕刊印刷速度ピークカット。平成29年度より近年の新聞発行部数減により実施しなかった。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
	レ	GHG排出		コード (1218)	一部LED照明に更新。30年度以降も継続する。	2015 年度

14	レ	人工排熱	高石工場	照明の省電力	～ 2017 年度
	レ	平準化			

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度
		人工排熱				～
						年度

(4)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市北区野崎町5番9号	氏名	株式会社 読売新聞大阪本社 代表取締役社長 溝口 烈
特定事業者の主たる業種		41映像・音声・文字情報制作業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		近畿、中国、四国、福井県ならびに三重県の一部に読売新聞を発行。大阪府内には本社ビルと印刷工場、支局・通信部を有している。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)
----------	---------------------------------------

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	10,684 t-CO ₂	13,284 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	11,678 t-CO ₂	14,649 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	1.7 %	-13.0 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	1.6 %	-13.1 %	-25.5 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>豊中市に大規模商業施設(SENRITOよみうり:原油換算1792キロリットル)がオープンした。このためエネルギー使用量が増加した。削減率-24.4%</p>	
<p>省エネ機器の導入 導入した省エネ機器は照明のLED化</p>	

(2) 推進体制

社内組織である環境委員会が中心となって全社的に節電運動に取り組み、対応策の周知を徹底した。また電力消費が大きい夏場と冬場の昼間は30分単位で電力を測定し、目標値以上に節電が出来ているかを監視し、どの時間帯でどのような状況で消費電力が多いかを分析し、さらなる改善を行い効果を検証した。

東館では夏季昼間のピーク電力を削減するため、1000トンの冷水蓄熱槽を利用して、消費電力が多い印刷機械と冷凍機の運転時間が重ならないよう冷凍機の運転を実施した。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	東館	コード (1216) エアコン更新	省エネタイプのエアコンに更新	2015 年度 ～ 2018 年度
		人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	事務所	コード (1113) 使用電力量の抑制	照明設備、パソコン等使用していない時は電源を切る。	2015 年度 ～ 2018 年度
		人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	東館 本社ビル	コード (1126) 省エネ性能の高い機器に更新	設備更新のタイミングに合わせて、省エネ性能の高い機器に更新する。	2015 年度 ～ 2018 年度
		人工排熱				
		平準化				
4		GHG排出	東館	コード (1122) 空調機フィルター交換、コイル洗浄	空調機内のフィルター交換やコイルフィン洗浄	2015 年度 ～ 2018 年度
		人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	東館 本社ビル	コード (1218) LED照明に更新	LEDなど高効率の照明に更新。 29年度は本社ビル40W相当382台、32W相当51台を更新	2015 年度 ～ 2018 年度
		人工排熱				
		平準化				
6		GHG排出	東館	コード (5121) 電力ピークのシフト	1000トンの冷水蓄熱槽を利用して、印刷機械と冷凍機の運転時間帯が重複しないよう工程調整、ピーク電力を削減する。	2015 年度 ～ 2018 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
7		GHG排出	本社ビル	コード (5121) 電力ピークのシフト	夏季は出勤前の午前9時までにエアコン26度設定で部屋を冷やしておき、9時以降エアコンを停止させガス冷房のみとし、昼間のピーク電力を削減する。	2015 年度 ～ 2018 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策

--	--	--	--	--	--

実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市中央区城見 2-2-33	氏名	読賣テレビ放送株式会社 代表取締役社長 伝川 幹
特定事業者の主たる業種		38放送業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<p>当社は放送業として主に放送法による基幹放送事業及び放送番組の企画、制作、販売活動を行っている。また、文化事業および放送に関連ある一切の事業及び各種ソフトウェアによる放送・通信サービスの提供を行っている。</p> <p>平成15年度から放送のデジタル化に伴い順次デジタル化対応を実施し、平成23年度に完全デジタル放送へ移行した。</p>		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)
----------	---------------------------------------

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(0)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	5,761 t-CO ₂	5,385 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,287 t-CO ₂	5,926 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)	
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	8.1 %	6.0 %	6.6 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	7.5 %	5.3 %	5.8 %	
吸収量による削減率		%	%	%	%	

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>今年度は基準年値対して排出量を6.6%削減し目標値をクリア出来ています。</p> <p>電気使用量において、新社屋への移転を予定しており現社屋への設備投資を凍結したこともあり、大幅な削減はみられませんでした。ガスの使用量に影響する設備(吸収式冷凍機)の運用を大幅に見直したことにより削減効果が出ています。</p> <p>また、電力不足による節電対応を積極的に行っています。</p>
<p>ハイブリッド車(1台)を活用していますが、事業活動に伴う車両使用状況が前年度と同様であり大きな変化はありませんでした。また、29年2月に車両を1台購入しています。</p>

(2) 推進体制

平成18年度に代表取締役社長を委員長とし役員、局長を委員とする環境委員会を設置し、各局業務部長をメンバーとする事務局を設け環境への取組みを全社一丸で進めています。また、昨年度の環境自主行動計画については結果の評価を行い、今年度に反映させた環境自主行動計画を策定し環境委員会で承認を得ています。

デマンド監視装置で監視を行い、電力使用量が上がった場合、セントラル空調システム等を手動で停止させる等の処置を取りピークカットに努めています。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	読賣テレビ放送株式会社 本社ビル	コード (1218)	執務室の照明蛍光灯間引き (年間 17t-CO2を削減) 継続実施中	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱		蛍光灯間引き		
		平準化				
2		GHG排出	読賣テレビ放送株式会社 本社ビル	コード (5111)	熱源機器デマンド対応チューニング運用 継続実施中	2015 年度 ～ 2018 年度
		人工排熱		エアコンの間引き運転		
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	読賣テレビ放送株式会社 本社ビル	コード (5112)	2階、1階、G階ロビー、廊下、食堂等共用場所照明を減灯 継続実施中	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱		共用場所照明の減灯		
		平準化				
4		GHG排出	読賣テレビ放送株式会社 本社ビル	コード (5113)	PC更新時にデスクトップ型からノート型への入替及びノートPCのピークシフト機能活用、PCモニターの省エネ設定活用 継続実施中	2015 年度 ～ 2018 年度
		人工排熱		ノートPC化等		
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	読賣テレビ放送株式会社 本社ビル	コード (5114)	電気給湯器、電気給茶機の1部を除いて運転停止、自動販売機の節電設定活用 継続実施中	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱		電気給湯器等の運転停止		
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	読賣テレビ放送株式会社 本社ビル	コード (1216)	WTA一部老朽更新 (年間 4t-CO2を削減) 実施済み	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱		エアコン更新		
		平準化				
7		GHG排出	読賣テレビ放送株式会社 本社ビル	コード (1113)	デマンド監視装置により運転管理を行う。 継続実施中	2015 年度 ～ 2018 年度
		人工排熱		デマンド監視		
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	読賣テレビ放送株式会社 本社ビル	コード (1126)	パッケージエアコン室内機の定期的なフィンファンの定期的な洗浄を行い熱効率の低下を防ぐ。 継続実施中	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱		エアコンの熱効率低下防止		
		平準化				
9	レ	GHG排出	読賣テレビ放送株式会社 本社ビル	コード (1218)	常時人のいない箇所の照明を人感センサーにより減光させて運用する。 継続実施中	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱		人感センサーによる運用		
		平準化				
10	レ	GHG排出	読賣テレビ放送株式会社 本社ビル	コード (1218)	屋外建物周辺照明器具をLEDへ変更 実施済み	2016 年度 ～ 2016 年度
	レ	人工排熱		高効率照明設備の導入		
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	読賣テレビ放送株式会社 本社ビル	コード (2122)	環境自主行動計画の取組みとして業務でのタクシー利用から公共交通機関利用を促進する。 継続実施中	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱		公共交通機関利用促進		
	レ	GHG排出	読賣テレビ放送株式会社 本社ビル	コード (2123)	運転手全員にエコドライブを周知徹底し、実施	2015 年度

2	レ	人工排熱	送株式会社 全社	エコドライブの 推進	する。 継続実施中	～ 2018 年度

(4)その他の抑制対策

<p>平成18年4月に環境委員会を設置し環境への取組体制を明確にしました。</p> <p>平成28年度は継続した環境自主行動計画に基づき節水、節電活動、省エネ機器導入、紙資源削減、資源ごみの分別回収、公共交通機関の促進や放送業独自の取組みとして環境啓発用の番組制作、環境活動イベントを行いました。</p> <p>平成29年度も環境自主行動計画の実施を促進し継続して環境活動に取り組めます。</p>